

クボタトラクタ

取扱説明書

キャビン 付

GL 200・220・240
260・268・280
300・320・338
368・418



F-7487

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

トラクタ 安全五憲章

- 1・道路を走行するときは、
ブレーキペダルを連結します。
- 2・農道を走行するときは、
スピードを落とし路肩に注意します。
- 3・ほ場へ出入りするときは、
スピードを落としあぜに直角に走行します。
- 4・トラクタや作業機を点検調整するときは、
必ずエンジンを止め、油圧ロックをします。
- 5・補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項を、
これ以外にも本文の中で **安全ポイント** としてそのつどとり上げてお
ります。

更に、安全のポイントを抜粋した **安全注意ポスタ**・**納入品安全説明書**
を別冊にして添付しておりますので、よくお読みいただいて必ず守っ
てください。

はじめに

このたびはキャビン付トラクタをお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、GLシリーズのQ仕様(キャビン付トラクタ)について、特に異なる部分の取扱い方法・簡単な点検、及び手入れについてのみ記載しております。その他の説明につきましては別冊(標準仕様)のトラクタの取扱説明書をご覧ください。

本機のすぐれた性能を十分に発揮して、安全に快適な運転をしていただくため、本書と別冊を合せてよくお読みいただき、十分理解してからご使用くださるとともに、日常の保守点検・整備・給油など十分に行なって、末長くご活用ください。

なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として、直ちに製品に取入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

また、この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合せて表示していますので、お買いあげの製品の仕様をお確めのうえ、おまちがえのないようお願いいたします。

- GL200・220・240・260・280・300・320……………「小特Q₁仕様」
- GL200・220・240・260・280・300・320……………「小特Q₃仕様」
- GL268・338・368・418……………「大特Q₁仕様」
- GL268・338・368・418……………「大特Q₃仕様」

目次

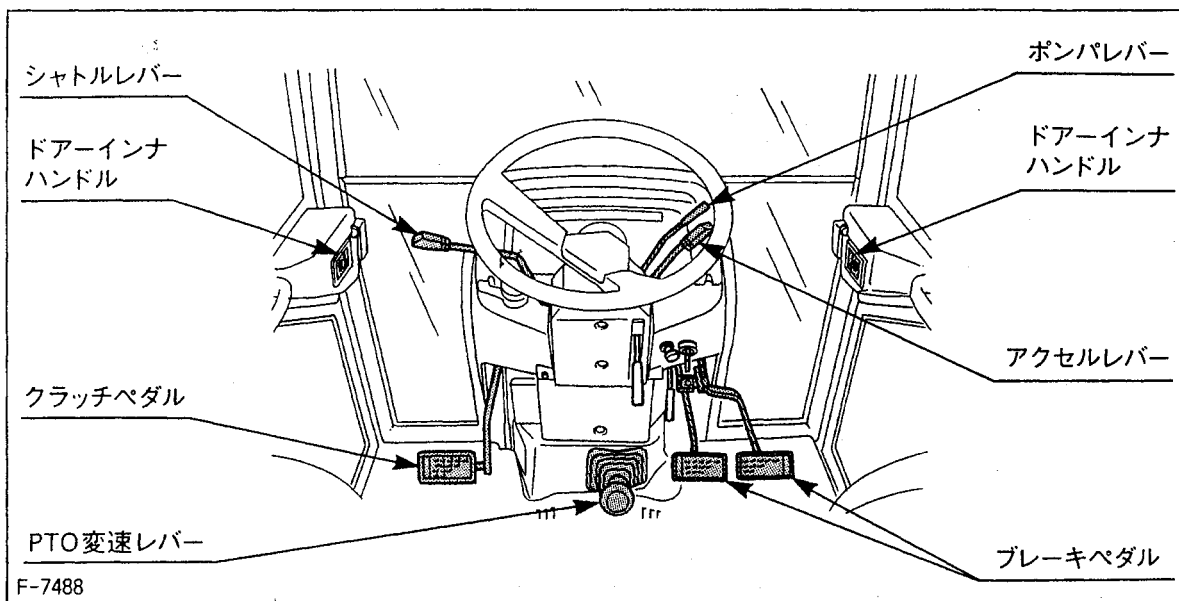
運転に必要な装置の取扱い……………	1
運転装置の取扱い……………	1
ドア・窓の開閉とロック……………	1
フロントワイパ……………	3
リヤワイパ……………	3
ラジオ……………	3
作業灯……………	4
ナンバプレートの取付け……………	4
バックミラーの調節・格納……………	4
ヒータ【Q ₁ 仕様】……………	5
クーラ・ヒータ【小特Q ₃ 仕様】……………	6
エアコン【大特Q ₃ 仕様】……………	7
灰皿……………	8
インプレメントの装着……………	8
グローブボックス【小特Q ₁ 仕様】……………	8
後輪輪距の調整【GL280Q仕様】……………	9
走行速度表【GL280Q仕様】……………	9
キャビンの簡単な手入れと処置……………	10
各部への注油と給水……………	10
エアコン／クーラ装備品の点検・調整……………	11
付 表……………	12
主要諸元……………	12
AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い……………	14

運転に必要な装置の取扱い

運転装置の取扱い

キャビン仕様の变速・油圧レバー及びブレーキ・クラッチペダル関係などの配置は、標準仕様(キャビンなし)と同様です。

操作方法及び注意事項については、そちらを参照してください。



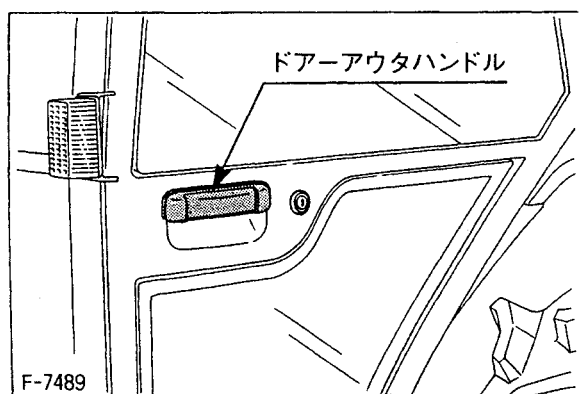
ドア・窓の開閉とロック

■ドア

◆ドアの開閉とロック

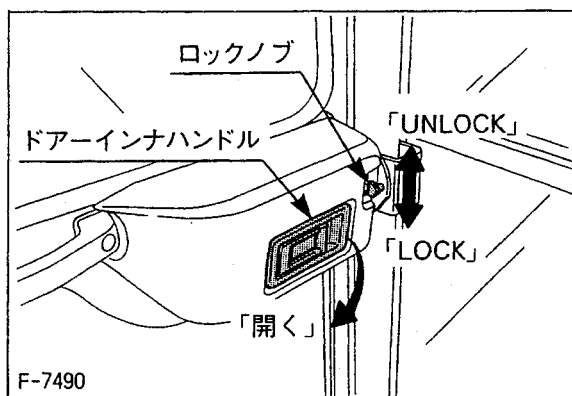
車外から……●キー(専用キー)を回すと施錠・解錠されます。

●ドアアウトハンドルを引き、開けます。



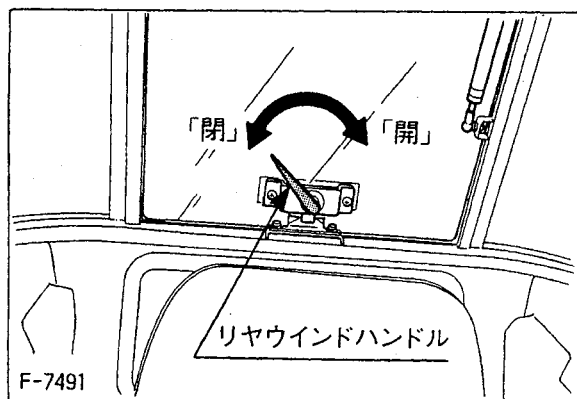
車内から……●ロックノブを押込むと施錠, 引くと解錠されます。

●インナハンドルを引き、開けます。



■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し、そのまま押すと、ダンパの作用で自動的に開きます。



注意

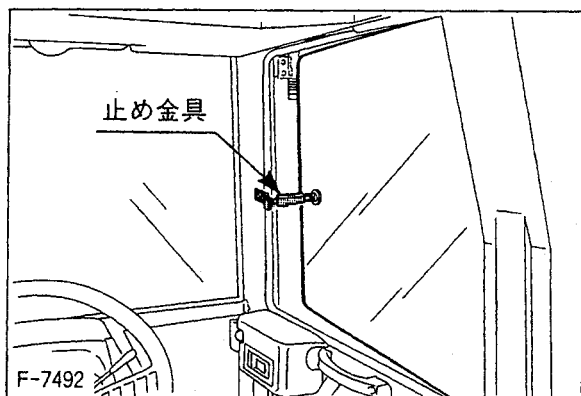
- (1) 作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので、開閉するときには十分確認して行なってください。
- (2) リヤウインドを開放したままで、高速走行や悪路走行をしないでください。

安全ポイント

- (1) ガラスの取扱いは、ていねいに行なってください。
- (2) 作業機を取付けた場合の開閉は、特に作業機上昇時、安全を確認してから行なってください。(強化ガラスを使用していますが、作業機の鋭角部との接触はガラスの性格上破損につながります。)
- (3) リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は、リヤウインドの開閉に注意してください。(開放時頭などを打つ恐れがあります)

■サイドウインド

止め金具を手前に引き、ガラスと共に外側へ押すと開きます。

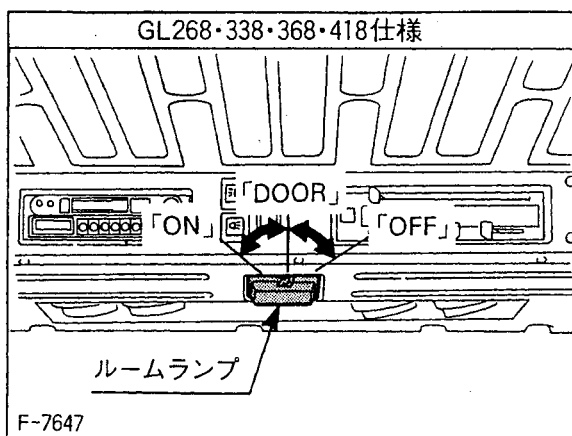
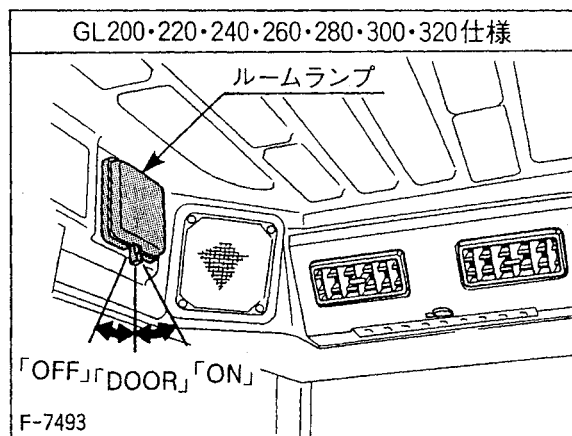


■ルームランプ

「OFF」………常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

「DOOR」……左ドアを開けるとランプが点灯し、閉めるとランプは消灯します。

「ON」………ドアの開閉に関係なく、ランプが点灯します。



注意

- 右ドアの開閉では、ルームランプの点灯消灯はできません。

フロントワイパ

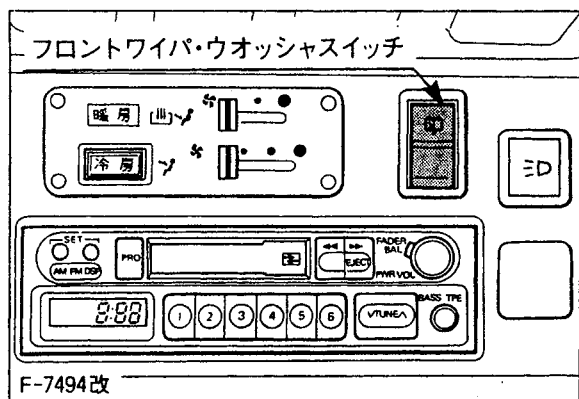
■ワイパ・ウォッシャスイッチ

 マークを1段押すとワイパが作動します。さらに2段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。また、ワイパが「OFF」の状態でも  マークのついていない側を押すと、押している間ウォッシャ液が噴射します。

 マークはライト点灯時点灯します。

注意

- からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。



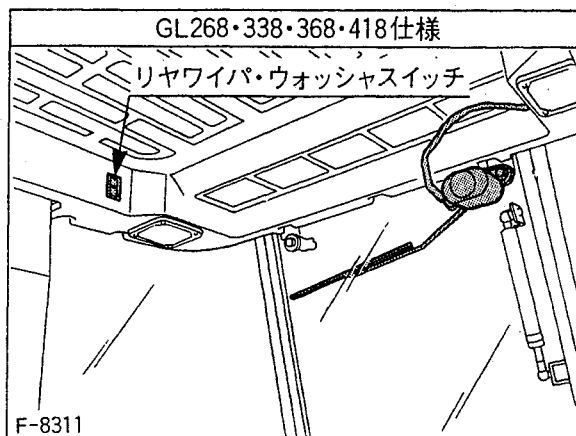
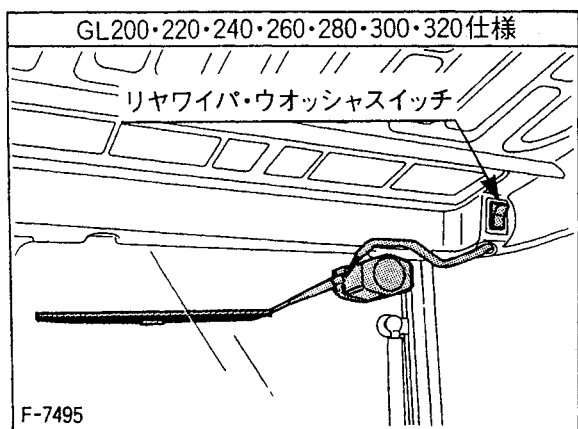
リヤワイパ

■ワイパ・ウォッシャスイッチ

取扱いはフロントワイパと同様です。

注意

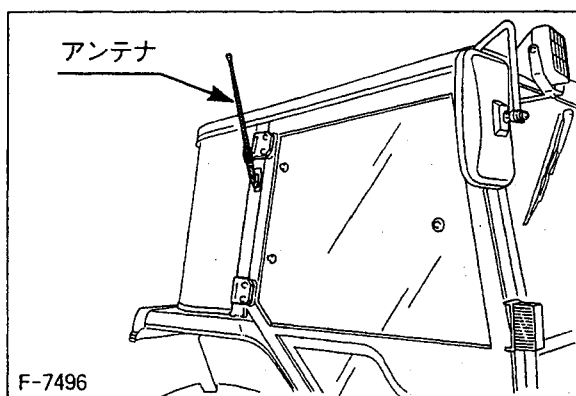
- からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。



ラジオ

運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

■アンテナ



注意

- アンテナは角度調整できませんので動かさないでください。

■AM/FMラジオ付きカセットプレーヤ

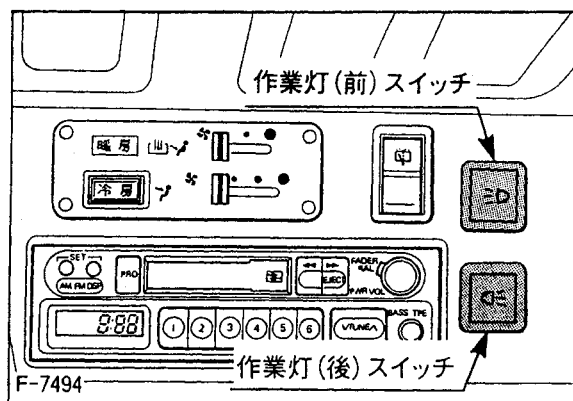
操作方法は、巻末に記載しておりますので参照してください。

作業灯

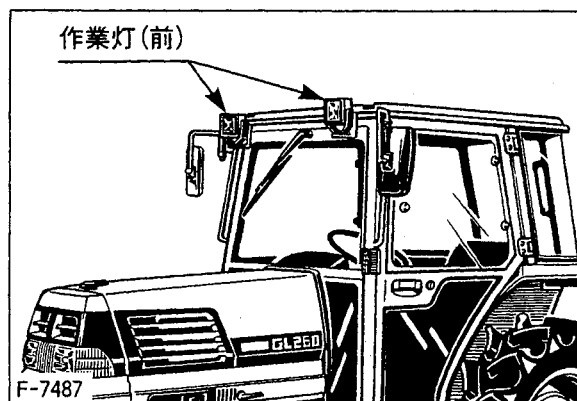
小特Q ₁ ・Q ₃ 仕様	前2灯
大特Q ₁ ・Q ₃ 仕様	前後4灯

メインスイッチ「ON」位置にして作業灯スイッチを押すと作業灯が点灯します。再度押すと消灯します。

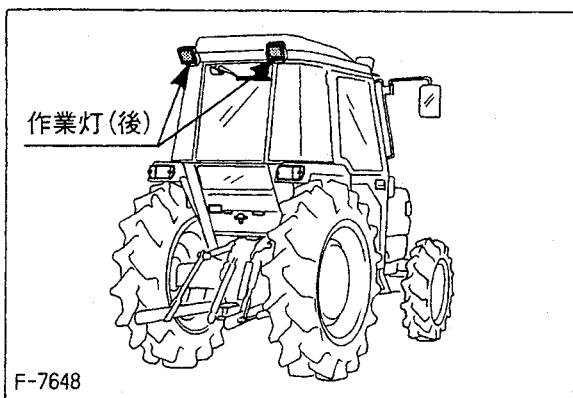
■作業灯スイッチ



■作業灯(前)



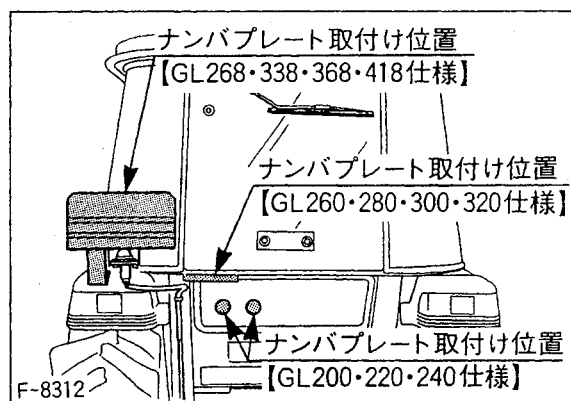
■作業灯(後)



注意

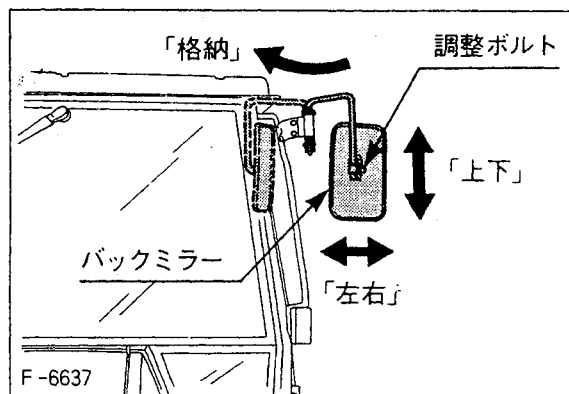
- バッテリーがあがりますので、ヒータ・作業灯・ヘッドランプなど電装品を使用する場合は、エンジン回転を1200rpm以上にしてください。

ナンバプレートの取付け



バックミラーの調節・格納

- (1) バックミラーは、上下・左右に調節できますので、運転席に座って見やすい位置に調節してください。
- (2) バックミラーは、格納できますので狭い場所などで利用してください。

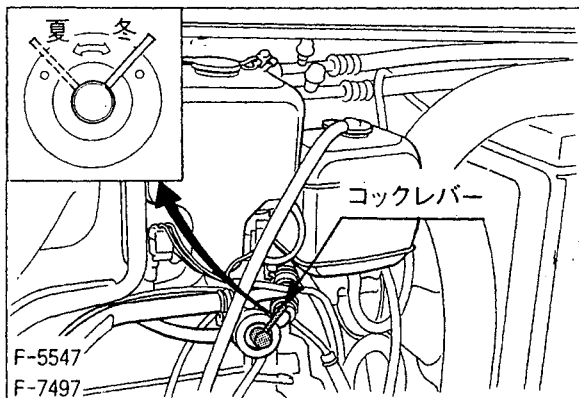


ヒータ【Q₁仕様】

■ヒータ用コック

ヒータを使用するときは、コックを全開(時計方向に回す)にします。

夏期ヒータを使用しないときは、熱気で室内温度が上昇しないように、コックを閉じておいてください。



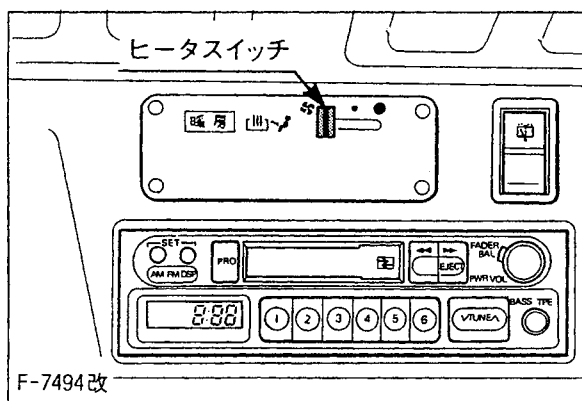
注意

- 水量をチェックするときは、コックを全開にして行なってください。

■ヒータスイッチ

風量を(弱)(強)の2段階に調整できます。

室内の温度によって使い分けてください。

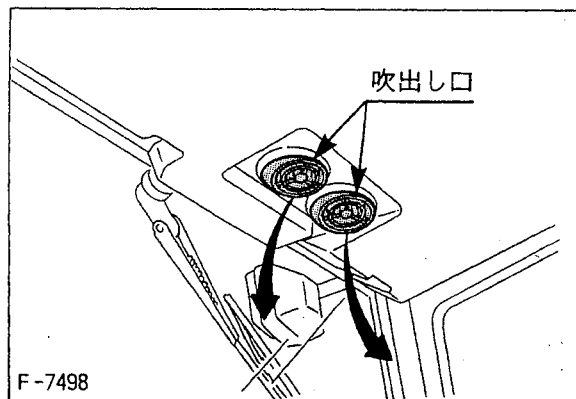


注意

- (1)暖機運転をした後ヒータスイッチを「弱」にしてください。
また、室温が上昇中にガラスが曇ればやわらかい布で水気をふきとってください。
- (2)ヒータの吹出し口をふさがないようにしてください。故障の原因になります。

■風向調整

温風の方向は、吹出し口により自由に調整できます。デフロスタ(フロントガラスのくもり止め)として使用する場合、吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。



■ヒータ使用上の注意

- (1)冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
また、有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
 - (2)冬期において不凍液を使用しない場合は、運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
(別冊“冷却水の交換”を参照してください。)
 - (3)ウォーターホースは2シーズンごとに交換を受けてください。
 - (4)日常点検
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)
- ①ウォーターホースの傷付き、ひびわれ、ふくらみ
 - ②ウォーターホースジョイント部の水漏れ
 - ③ウォーターホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ、破損
 - ④本体取付けボルトの緩み、ブラケットの破損
- (5)ウォーターホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

クーラ・ヒータ【小特Q₃仕様】

クーラの取扱い

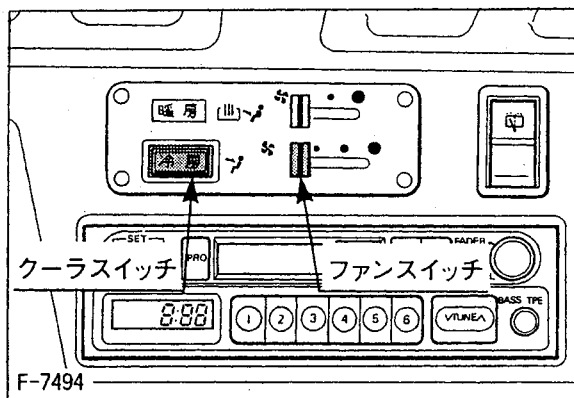
■スイッチ

◆ファンスイッチ

風量を(弱)(中)(強)の3段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。

◆クーラスイッチ

クーラを使うときは、このスイッチを押して「ON」にします。(スイッチ内のランプが点灯します)
再度スイッチを押すと「OFF」になります。



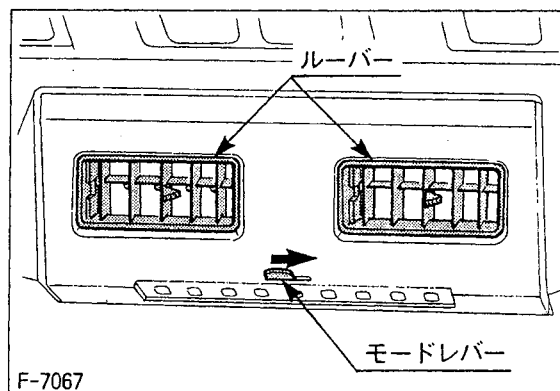
■風向調整

◆モードレバー

モードレバーを矢印方向に開くと、冷風は足元方向にも吹出します。

◆ルーバー

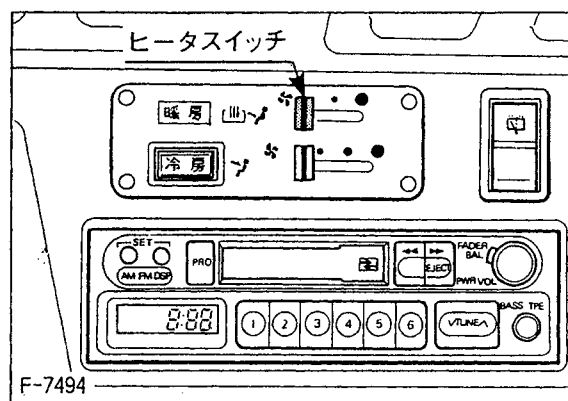
冷風の方向は、ルーバーの向きにより自由に調整できます。



ヒータの取扱い

■ヒータスイッチ

風量を(弱)(強)の2段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。



■除湿暖房

フロントガラスのくもり除去や室内の除湿暖房を行うときは、クーラとヒータを同時に使用してください。最適のコンディションが得られます。

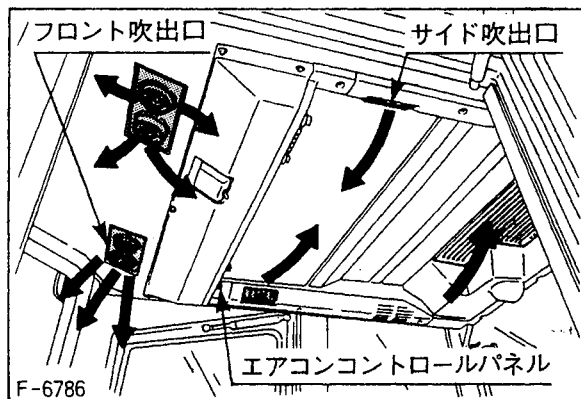
お願い

- その他ヒータに関する取扱いは、前ページを参照ください。

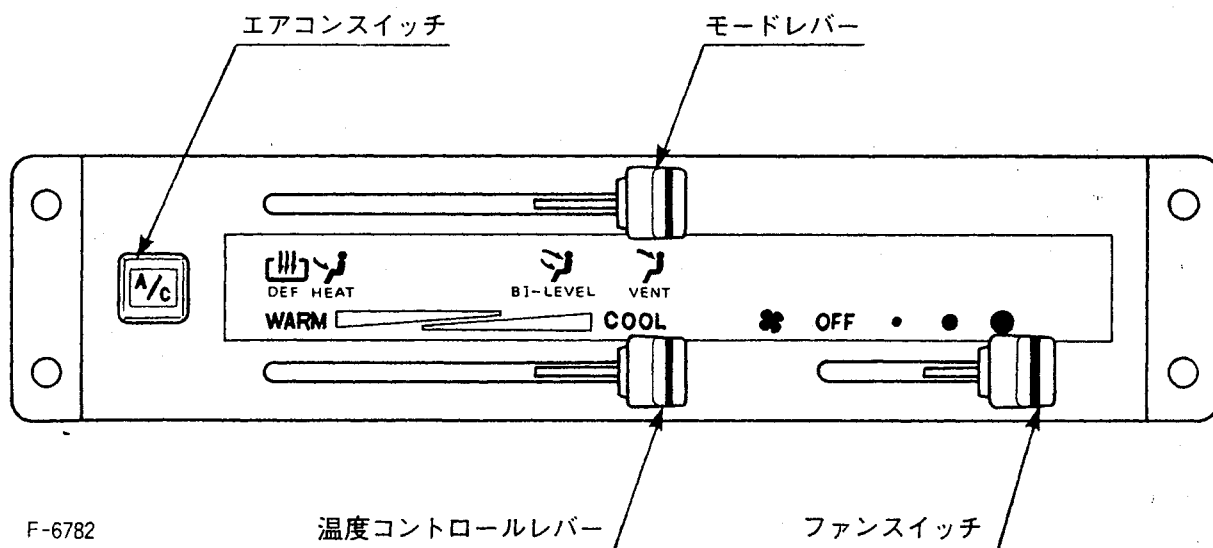
エアコン【大特Q₃仕様】

■空気の流れ

キャビン内の空気の流れは下図のとおりです。4ヵ所の吹出口の調節により、最適のコンディションが得られます。



■コントロールパネルの説明



◆モードレバー

風の吹出口を変えるレバーです。

使う目的に応じて位置を選んでください。



フロント吹出口より風が出ます。
(ウインドガラスのくもりを取りながら、
室内を暖房するときの位置です。)



フロント吹出口及びサイド吹出口より風
が出ます。(頭寒足熱時使用します。)



サイド吹出口より風が出ます。
(冷房時使用します。)

◆温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。左に寄せると温風、右に寄せると冷風が出ます。

◆ファンスイッチ

風量が3段階に切換えられます。

◆エアコンスイッチ

エアコンを使うときは、このスイッチを押して「ON」にします。「ON」のとき、インジケータランプが点灯します。

■取扱操作方法

◆暖房

室内を暖房するとき、 にセットします。暖かくなりすぎるときは  のスピードを下げるか、温度コントロールレバーを右に寄せてください。

◆除湿暖房

室内の除湿をするときは、 にセットし、エアコンスイッチ  を「ON」にしてください。

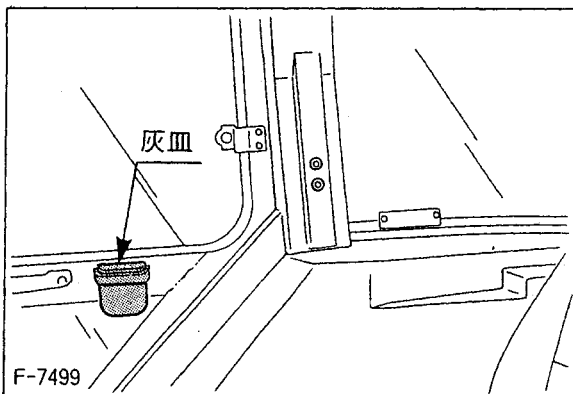
◆デフロスト

フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは、 にセットし、フロント吹出口をフロントガラスに向けてください。

◆頭寒足熱

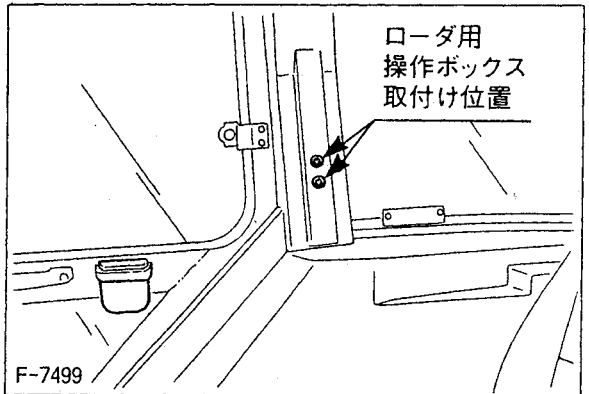
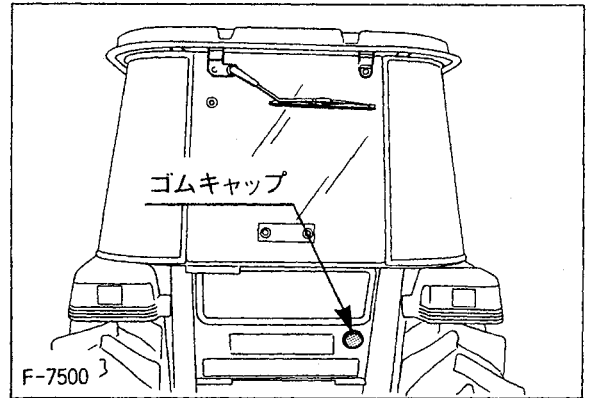
顔が涼しく、足元が暖かい快適な状態を得るには、 にセットし、エアコンスイッチ  を「ON」にし、温度コントロールレバーは中間位置を使用してください。

灰皿



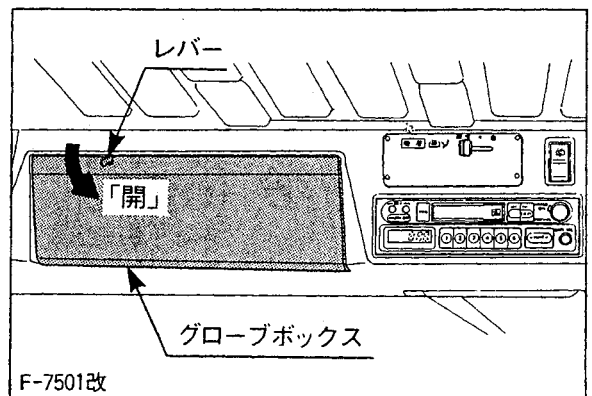
インプレメントの装着

ゴムキャップに穴を開け、インプレメント用操作コード・油圧ホースなどをキャビン室内に導入してください。



グローブボックス【小特Q₁仕様】

レバーを下げると、ボックスが手前に開きます。



注意

- (1) 重いものを入れないでください。
- (2) 開けたままの走行や作業は危険ですのでしないでください。

後輪輪距の調整【GL280Q仕様】

その他の仕様につきましては、別冊(標準仕様)のトラクタの取扱説明書をご覧ください。

安全ポイント

- けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。
最小輪距では、左右のバランスが不安定になります。
▶もし怠ると……
転倒による傷害事故を起すことがあります。

注意

- (1)タイヤは、側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
- (2)ストレークは、最小輪距のときだけ取付けられます。
- (3)後輪ウエイトは、すべての輪距で取付けられます。
輪距によりディスクの組替えも合わせて行なってください。

形 式 (標準タイヤ)	輪距	輪距	輪距	輪距	輪距	輪距
GL280Q (11.2-26)	1110mm (出荷状態)	1210mm	1230mm	1330mm	1405mm	1500mm

走行速度表【GL280Q仕様】

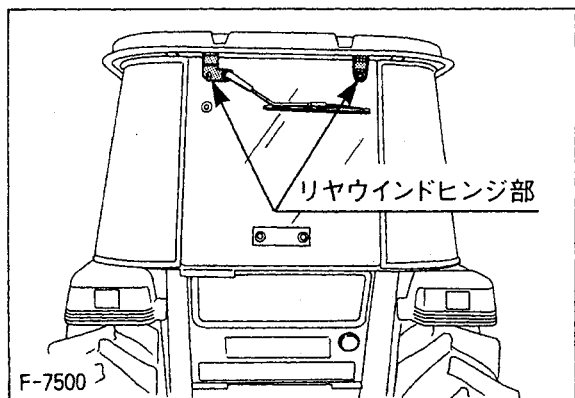
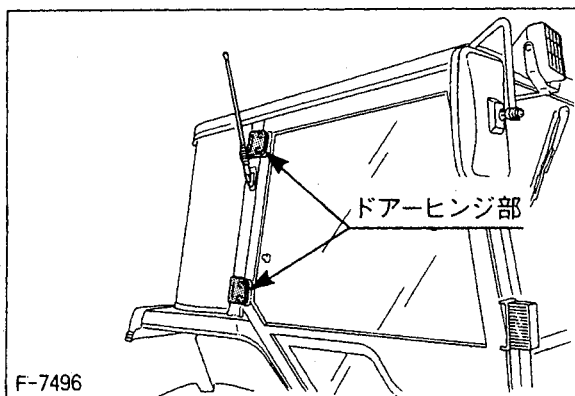
その他の仕様につきましては、別冊(標準仕様)のトラクタの取扱説明書をご覧ください。

マニュアルシフト仕様			Uシフト仕様		GL280Q		〔km/h〕
主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	
1	L	L	1	L	0.22	0.20	
2			2		0.32	0.29	
3			3		0.39	0.35	
4			4		0.51	0.46	
1	H		5	L	0.75	0.67	
2			6		1.06	0.95	
3			7		1.29	1.16	
4			8		1.71	1.54	
1	L	H	1	H	1.80	1.62	
2			2		2.55	2.30	
3			3		3.13	2.82	
4			4		4.14	3.73	
1	H		5	H	6.01	5.41	
2			6		8.50	7.65	
3			7		10.43	9.38	
4			8		14.87	13.38	

キャビンの簡単な手入れと処置

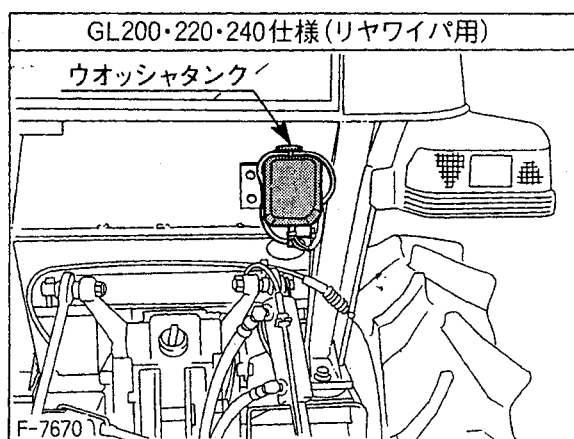
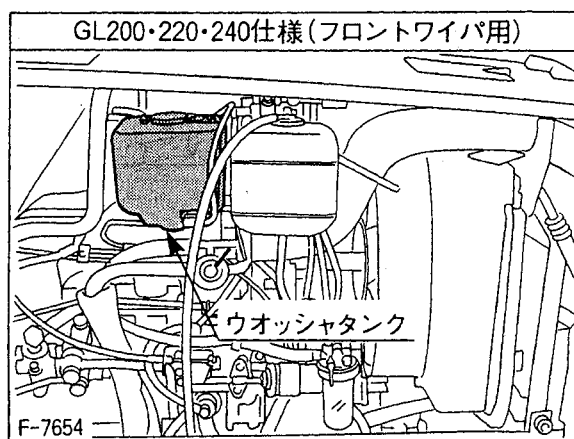
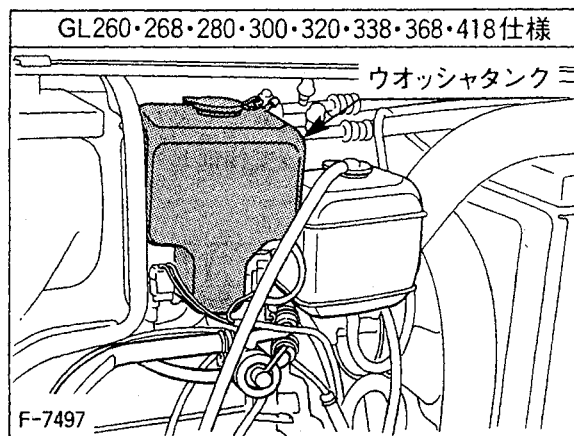
各部への注油と給水

■オイルの注油



■ウォッシュ液の補充

自動車用ウォッシュ液を適量補充してください。
(タンク容量2.5ℓ)



注意

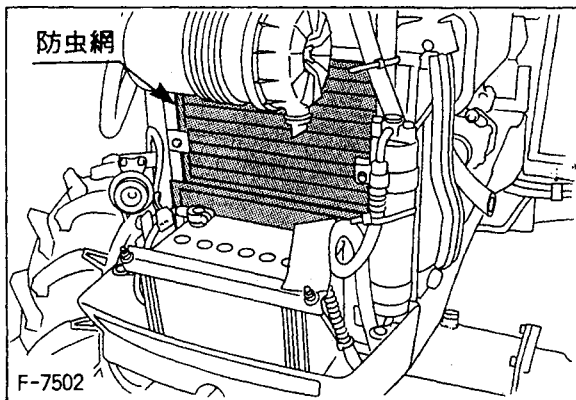
- 凍結を避けるため、清水のみの使用はしないでください。

エアコン／クーラ装備品の点検・調整

■防虫網の清掃(コンデンサ用) 【Q₃仕様】

エアコン／クーラ仕様では、ラジエータと同様にコンデンサの前にも防虫網があります。

防虫網は下側より巻上げ清掃してください。清掃後は、必ずコンデンサに沿って伸ばしておいてください。



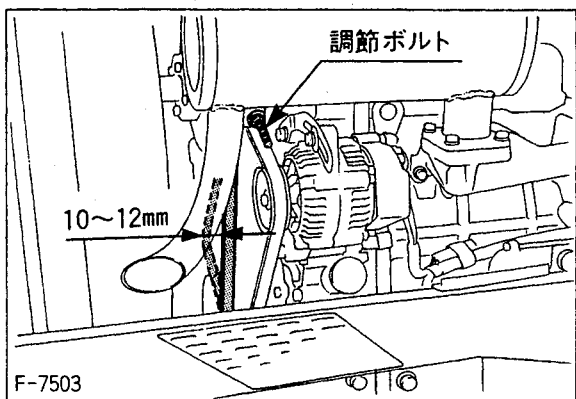
■ヒータ配管, ホースの点検

■エアコン／クーラ配管, ホースの点検【Q₃仕様】

各配管及びホースの損傷を点検してください。

■エアコン／クーラベルトの張り 【Q₃仕様】

プーリ間のベルトを指で押し点検します。10kgで10～12mmが適正です。



付表

主要諸元

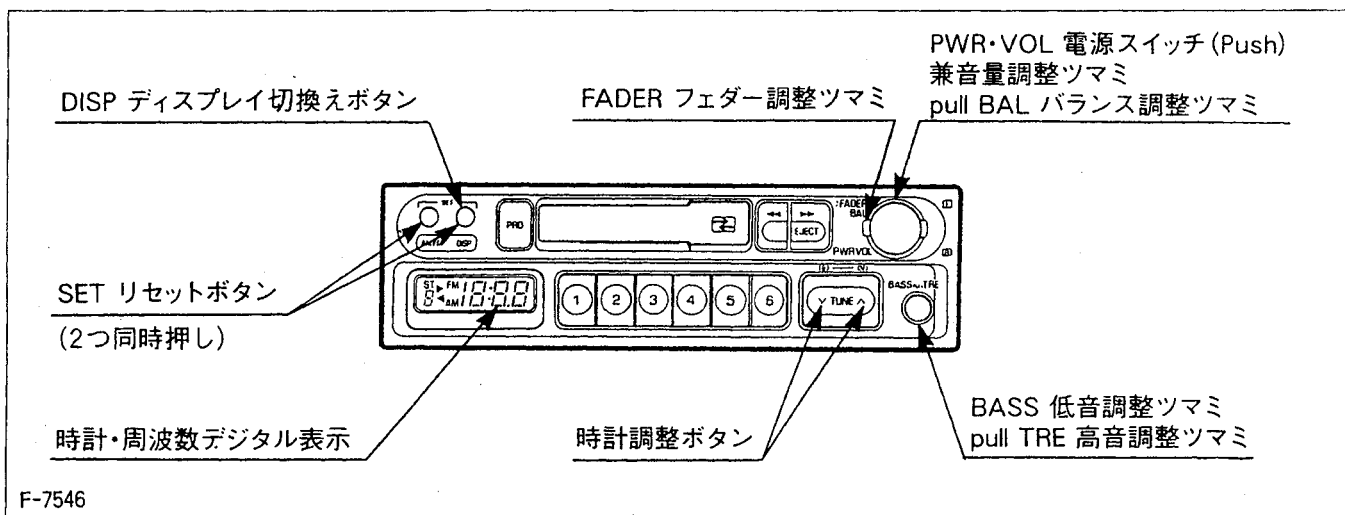
■トラクタの主要諸元

形 式		GL200Q	GL220Q	GL240Q	GL260Q	GL268Q	GL280Q
駆 動 方 式		4 輪駆動					
機 体 寸 法	全 長(mm)	3005			3050		3130
	全 幅(mm)	1300			1350		1420
	全 高(mm)	1970		1995		2245	1970
	軸 距(mm)	1585			1645		1700
	輪 前 輪(mm)	950			1080		1130
	距 後 輪(mm)	1010, 1130			1050～1345(6段)		1110～1500 (6段)
	最 低 地 上 高(mm)	335		350	345		360
重 量(kg)		1245		1285	1310	1370	1350
エ ン ジ ン	名 称	クボタ D1403-L-N	クボタ D1463-LL-N	クボタ D1463-L-N	クボタ D1503-LL-N	クボタD1503-L-N	
	形 式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル					
	総 排 気 量(cc)	1393	1463		1499		
	出力/回転速度(PS/rpm)	20/2500	22/2500	24/2500	26/2600		28/2600
	使 用 燃 料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油					
	燃料タンク容量(ℓ)	27					
	始 動 方 式	セルモータ式(グロープラグ付)					
	バ ッ テ リ	75D26R MF(メンテナンスフリー)					
タイ ヤ	前 輪	6-14-4PR			7-16-4PR		8-16-4PR
	後 輪	8.3-24-4PR ニューバランスタイヤ	9.5-22-4PR ニューバランスタイヤ	9.5-24-4PR ニューバランスタイヤ	11.2-24-4PR ニューバランスタイヤ		11.2-26-4PR ニューバランスタイヤ
車 体	ク ラ ッ チ 方 式	乾式単板					
	制 動 装 置	一系統左右独立(連結装置付), 湿式ディスクブレーキ(機械式)					
	か じ 取 り 方 式	ボールスクリュ式(インテグラルパワーステアリング)					
	差 動 方 式	2ピニオンかさ歯車式(デフロック付)			4ピニオンかさ歯車式(デフロック付)		
変 速 方 式	変 速 方 式	コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動/Uシフト			Uシフト	コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動/Uシフト	
	変 速 段 数(段)	前進16, 後進16(シャトル)					
走 行 速 度	前 進	0.22～14.65		0.23～14.88	0.22～14.80	0.32～23.73	0.22～14.87
	(km/h) 後 進	0.19～13.19		0.20～13.39	0.19～13.32	0.30～21.91	0.20～13.38
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)		1.9			2.1		
P T O	回 転 / エンジン 速 度 / 回 転 速 度 (rpm)	546,772 947,1254/2500		568,803 985,1304/2600		544,770 944,1250/2600	
	正 転 逆 転	772/2500			803/2600		770/2600
O	軸 寸 法(mm)	JIS 35					
昇 降 装 置 機 置	制 御 方 式	ポジションコントロール					
	装 着 方 式	3点リンク JIS 1形					

形 式		GL300Q	GL320Q	GL338Q	GL368Q	GL418Q
駆 動 方 式		4 輪駆動				
機 体 寸 法	全 長(mm)	3180			3325	
	全 幅(mm)	1420	1455		1500	1490
	全 高(mm)	1990		2245	2290	
	軸 距(mm)	1750			1830	
	輪 前 輪(mm)	1130				
	距 後 輪(mm)	1085~1475(6段)	1110~1575(6段)		1180~1473(5段)	1155~1447(5段)
	最 低 地 上 高(mm)	360				
重 量(kg)	1400	1410	1465	1640		
エ ン ジ ン	名 称	クボタD1503-N	クボタD1503-H-N	クボタD1703-N	クボタV1903-E-Q	クボタV2203-E-Q
	形 式	水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼル			水冷 4 サイクル 4 気筒立形ディーゼル	
	総 排 気 量(cc)	1499		1647	1857	2197
	出力/回転速度(PS/rpm)	30/2700	32/2800	33/2700	36/2600	42/2600
	使 用 燃 料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油				
	燃料タンク容量(ℓ)	35				
	始 動 方 式	セルモータ式(グロープラグ付)				
バ ッ テ リ	75D26R MF(メンテナンスフリー)			75D31R MF(メンテナンスフリー)		
タイ ヤ	前 輪	8-16-4PR				
	後 輪	12.4-26-4PR ニューバランスタイヤ	13.6-24-4PR ニューバランスタイヤ	13.6-24-4PR ニューバランスタイヤ	12.4-28-4PR ニューバランスタイヤ	13.6-26-4PR ニューバランスタイヤ
車 体	ク ラ ッ チ 方 式	乾式単板				
	制 動 装 置	一系統左右独立(連結装置付), 湿式ディスクブレーキ(機械式)				
	か じ 取 り 方 式	ボールスクリュ式(インテグラルパワーステアリング)			全油圧式パワーステアリング	
	差 動 方 式	4 ピニオンかさ歯車式(デフロック付)				
	変 速 方 式	コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動/Uシフト		Uシフト	コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動/Uシフト	
変 速 段 数(段)		前進16, 後進16(シャトル)				
走 行 速 度 (km/h)	前 進	0.22~14.48	0.22~14.90	0.32~23.21	0.17~25.13	
	後 進	0.20~13.03	0.20~13.41	0.29~21.18	0.15~23.04	
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)		2.2			2.3	
P T O	回 転 / エ ン ジ ン 速 度 / 回 転 速 度 (rpm)	正 転 565,800 980,1298/2700	586,829 1016,1346/2800	565,800 980,1298/2700	544,806,1252/2600	
		逆 転 800/2700	829/2800	800/2700	544/260	
O	軸 寸 法(mm)	JIS 35				
昇 降 装 置 機 構	制 御 方 式	ポジションコントロール				
	装 着 方 式	3点リンク JIS 1形				

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤーの取扱い

スイッチ・ツマミの取扱い



■PWR・VOL 電源スイッチ(Push) 兼音量調整ツマミ

押すたびに電源の「ON」「OFF」が切り替わります。
ツマミを時計方向(○)に回すと音量が増大します。
反時計方向(○)に回すと音量が減衰します。

■pull BAL バランス調整ツマミ

ツマミを引き時計方向(○)に回すと右側スピーカの音量が強調され、反時計方向(○)に回すと左側スピーカの音量が強調されます。
調整後はツマミを押し、元に戻して使用してください。

■FADER フェダー調整ツマミ

2スピーカ方式のため、ツマミを時計方向(○)に回してご使用ください。

注意

- フェダーノブを反時計方向に回すと音が出ません。

■BASS 低音調整ツマミ

ツマミの中間位置(クリック部分)に対して時計方向(○)に回すと低音が強調され、反時計方向(○)に回すと低音が減衰されます。

■pull TRE 高音調整ツマミ

ツマミを引きツマミ中間位置(クリック部分)に対して時計方向(○)に回すと高音が強調され、反時計方向(○)に回すと高音が減衰されます。

■DISP ディスプレイ切換えボタン

放送受信時にDISPボタンを押すと5秒間周波数表示されます。

■時計表示の合わせ方(時計調整ボタン)

DISPボタンを押しながら(V[H])ボタンを押すと、時間表示が変わります。

DISPボタンを押しながら(Λ[M])ボタンを押すと、分表示が変わります。

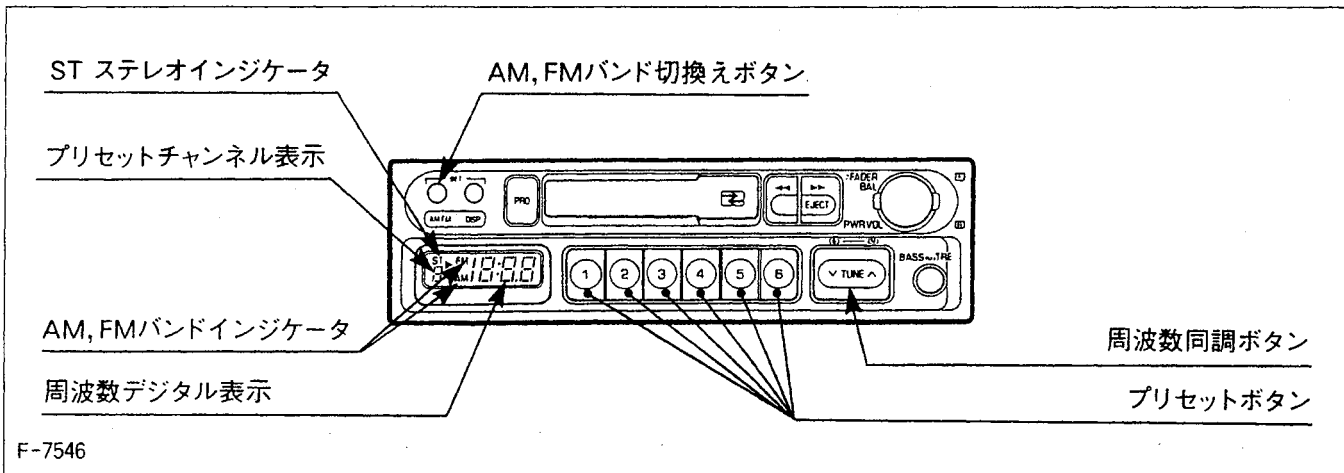
■SET リセットボタン(2つ同時押し)

AM・FM, DISPのボタンを同時に押すことにより、時計の“分”の単位をゼロにリセットできます。
“分”が30~59のときリセットすると“時”の単位を1つ進めてゼロリセットし、00~29のときは“時”をそのままにゼロリセットします。

注意

- 本機はエンジンキーを「OFF」にしても時計表示をしていますが、電流消費量を少なくするため表示部の照明は点灯しません。

ラジオを聞くには



■AM, FM バンド切換えボタン

バンド切換えボタンを押すとAM, FMのバンドが切換えられ、受信バンドは各々“AM”“FM”とバンドインジケータに表示します。

■ST ステレオインジケータ

FMステレオ放送受信時に“ST”の文字を表示します。

■周波数デジタル表示

受信周波数をデジタル表示します。

AM放送受信時はkHz単位で、FM放送受信時はMHzで表示します。

次のいずれかのボタンを押して選局します

■周波数同調ボタン

ボタンを押すと、周波数のデジタル表示数が増加し、 ボタンを押すと表示数が少なくなります。

AM受信時は9 kHzずつ移行し、FM受信時は、0.1MHzずつ移行します。

ボタンを0.5秒以上押し続けて離すと周波数のデジタル表示が増加し、自動的に選局、停止し、受信を継続します。

ボタンも同様に減少側を動作します。

■プリセットボタン

あらかじめ、このボタンにご希望の放送局をプリセットメモリしておきますと、ワンタッチで選局することができます。

プリセットメモリの方法

AM放送6局、FM放送6局をプリセットメモリすることができます。

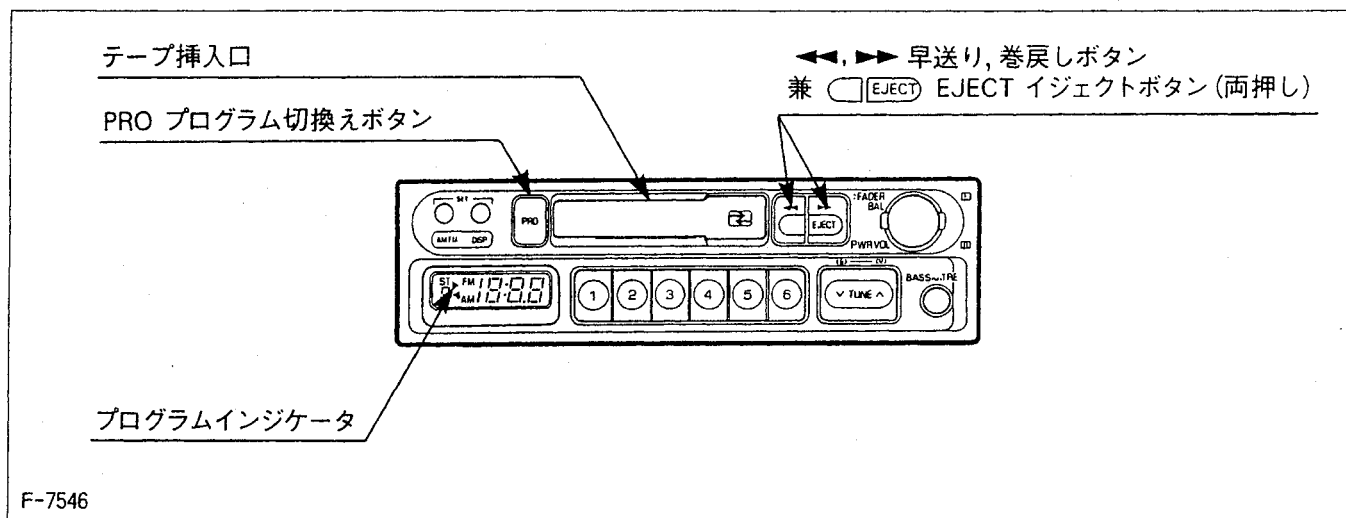
◆プリセット手順

文章及び図中番号順に操作します

- ①カセットテープを取出し、チューナ動作にした後、バンド切換えボタンを押し、AM放送かFM放送かを決めます。
- ②周波数同調(マニュアル)ボタンで放送局を選局します。
- ③メモリさせたいナンバのプリセットボタンを押し続けます。押すといったん音が消え、2秒後に再び音が出ます。
音が出ましたら完了です。
(このときチャンネル表示は押されたプリセット番号を表示します)

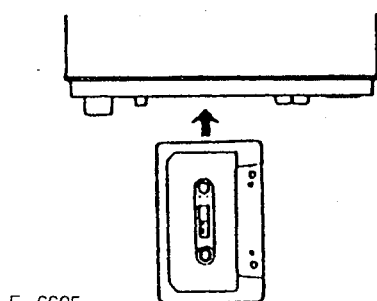
以上で完了です。

テープを聞くには



■テープ挿入口

電源スイッチをONにしテープの見える面を右側にし、聞きたい面を上側にして挿入します。挿入されると同時に再生を開始します。



■◀▶ プログラムインジケータ

テープの走行方向を2つのインジケータが表示します。

■◀◀, ▶▶ 早送り, 巻戻しボタン

◆早送りの場合

プログラムインジケータが◀(左方向)点灯時は、◀◀(左側)ボタンを押します。▶(右方向)点灯時は、▶▶(右側)ボタンを押します。ボタンを押すと、テープは早送りされます。

◆巻戻しの場合

プログラムインジケータが◀(左方向)点灯時は、▶▶(右側)ボタンを押します。▶(右方向)点灯時は、◀◀(左側)ボタンを押します。ボタンを押すと、テープは巻戻しされます。早送り、巻戻しを途中で解除する場合は、隣のボタンを軽く押します。

■PRO プログラム切換えボタン

◆自動プログラム切換え

テープが終端に達すると、自動プログラム切換え装置が働き自動的に次のプログラムに切り替わり、連続再生することができます。

◆手動プログラム切換え

プログラム切換えボタンを押すと、プログラムインジケータの点灯方向が切り替わり、再生途中でも自由にプログラムが切り換えられます。

■EJECT イジェクトボタン

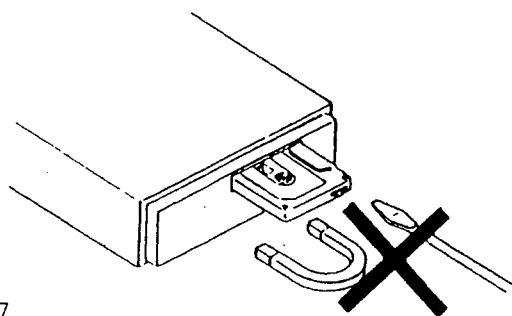
早送り、巻戻しボタンを同時に押してください。カセットテープが飛出します。

注意

- カセットテープを聞かないときは、必ずイジェクトボタンを押してテープを取出してください。

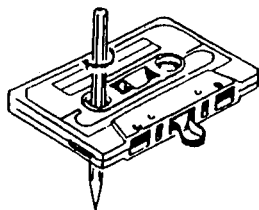
取扱い上の注意

- (1)本機は、水分や高温、多湿を嫌いますので、車内清掃や換気に十分ご注意ください。
- (2)ヘッド及びカセットテープに、磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。



F-6627

- (3)カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので、テープのゆるみを直してからご使用ください。



F-6626

- (4)カセットテープは、水平にし、カセットテープの中央を押し挿入してください。
- (5)C-120タイプのカセットテープは、テープ自身が非常に薄く、伸びたり、切れたりしますので、ご使用は避けてください。
- (6)ラベルのはがれかかったカセットテープ、またケースが変形しているカセットテープは、メカニズムの故障の原因となりますので、ご使用は避けてください。

- (7)ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音質でお聞きいただくため、ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお、クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。

- (8)車内の温度に気をつけてください。

極寒や酷暑のとき、とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。また、車を降りられるときには、必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。

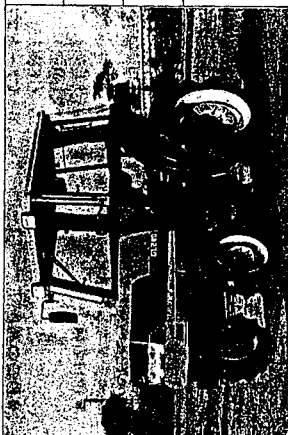
- (9)本機操作は、安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また、運転中の音量は事故防止のため、車外の音が聞える程度でお楽しみください。

- (10)本機のお手入れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽く拭取ってください。

- (11)カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音、多湿の場所(ダッシュボード上やシートの上)への長時間放置もさけてください。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成6年11月30日 生物系特定産業技術 研究開発事業機構	
型式名: クボタ	クボタ GL200
合格番号: 93042	
種類: 安全キャブ	
依頼者名: 株式会社 クボタ	
住所: 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目 2番47号	



I 装着可能トラクター

型式名	クボタ GL220	クボタ GL200
主要諸元 (最大及び最小トラクター)		
■型式	クボタ GL240	クボタ GL200
■種類	4輪駆動	4輪駆動
■質量 (キャブ付き)	kg : 1295	1256
■軸距	mm : 1585	1585
■機関出力 / 回転数	kW (PS) / rpm : 17.7 (24) / 2500	14.7 (20) / 2500

II 構造の概要

1. 構造及び基準法

供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部、後駆軸ケース部及びブレーキハウジング部にボルトで装着。ワインドスクリーン、ドア(両側)、側窓、後窓を装備。

2. 主な装備

シートベルト(2点式)、駆動ワイパー(前・後)

3. 主要寸法

■座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ	: 90.0 cm
■フットプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ	: 133.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅	: 100.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅	: 110.0 cm
■戸口の幅	: 63.5 cm
	(上部)
	(中部)
	(下部)
■戸口の高さ	: 80.0 cm
■最低位ステップの高さ	: 35.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	: 122.5 cm
■キャブの全幅	: 37.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離	: 199.0 cm
	: 120.0 cm
	: 23.5 cm

※1. クボタ GL220 (クイーンサイズ : 前輪 6-14 後輪 9.5-21) に装着時。

2. トラクタシャーシの規格型式 : 軽便プレス工業 N91350

3. ステアリングホイールの中心高さは中央位置に属す。

4. 主要材料

- 主フレーム : STK 400, STKR 400, SS 400, SPHC, SPCC
- 装着ブラケット : SS 400, SPHC
- 組立・装着ボルト : S40~45C

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。

■基準質量 : 1300 kg

■所要吸収エネルギー : 後部負荷 2.09 kJ (213 kgf·m)

■側部負荷 2.92 kJ (298 kgf·m)

■圧壊力 : 19.12 kN (1950 kgf)

2) 試験後のキャブの永久変位

■後部(前方へ) : 右側 1.5 cm 左側 4.5 cm

■前部(後方へ) : 右側 -2.0 cm 左側 -7.5 cm

■側部(左側方へ) : 前側 4.5 cm 後側 14.5 cm

■上部(下方へ) : 前部 右側 0.5 cm 左側 0 cm

後部 右側 1.5 cm 左側 2.0 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 : 9.0 cm

2. 騒音

■84 dBA (クボタ GL240) 82 dBA (クボタ GL200)

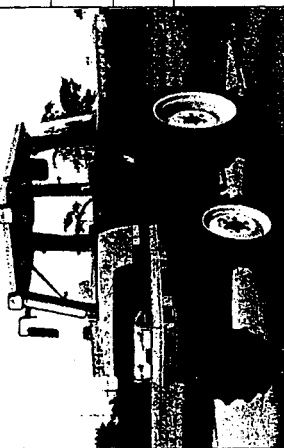
※ 7.5km/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音。運転者の耳もと

IV 付記

強度試験は、コードBにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成6年8月6日
生物系特定産業技術
研究開発推進機構



型式名: クボタ GL260
合格番号: 93008
種類: 安全キャブ
依頼者名: 株式会社 クボタ
住所: 大阪府大阪市浪速区津東1丁目
2番47号

I 装着可能トラクター

1. 型式名
クボタ GL260

2. 主要諸元
■型式 : クボタ GL260
■種類 : 4輪駆動
■質量(キャブ付き) : 1357 kg
■軸距 : 1645 mm
■機関出力/回転数 : 19.1(26)/2600 kW(PS)/rpm

II 構造の概要

1. 構造及び装着法

供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してミッドショーンケース部、後車軸ケース部及びブレーキハウジング部にボルトで装着。ウインドスクリーン、ドア(両側)、側窓、後窓を装備。

2. 主な装備

シートベルト(2点式)、暖房装置、電動ワイパー(前・後)

3. 主要寸法

■座席基準点から屋根部材(内装下面)までの高さ : 90.0 cm
■フートプレートから屋根部材(内装下面)までの高さ : 132.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅 : 100.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅 : 110.0 cm
■戸口の幅 : 66.5 cm
■戸口の幅 : 80.0 cm
■戸口の幅 : 35.0 cm
■戸口の幅 : 123.0 cm
■最低ステップの高さ : 36.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高(キャブ上端まで) : 199.5 cm
■キャブの全幅(フェンダーを含む) : 120.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離 : 25.0 cm

※1. クボタ GL260 (タイプサイズ : 前輪 7-16 後輪 11.2-24) に装着時。
2. トラクターシートは座席型式 : 簡便プレス工業 N9450
3. ステアリングホイールのチャートは中央位置に調整。

4. 主要材料
■主フレーム : STK 400, STRK 400, SS 400, SPHC, SPCC
■装着ブラケット : SS 400, SPHC
■組立・装着ボルト : S40~45C

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。
■基準質量 : 1370 kg
■所要吸収エネルギー : 後部負荷 2.21 kJ (225 kgf・m)
側部負荷 3.02 kJ (308 kgf・m)
■圧壊力 : 20.15 kN (2055 kgf)
2) 試験後のキャブの永久変位
■後部(前方へ) : 右側 2.0 cm 左側 8.5 cm
■前部(後方へ) : 右側 1.0 cm 左側 -10.0 cm
■側部(左側方へ) : 前側 4.0 cm 後側 19.5 cm
■上部(下方へ) : 前部 右側 1.0 cm 左側 3.0 cm
後部 右側 4.0 cm 左側 6.0 cm
3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 : 10.0 cm

2. 騒音

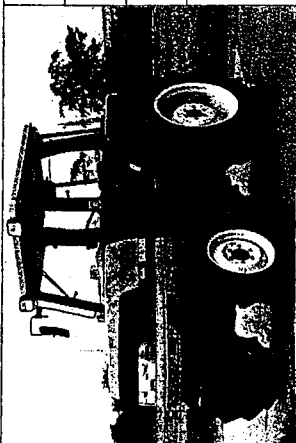
■ 83 dBA (クボタ GL260)

※ 7.5km/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音。運転者の耳もと

IV 付記

強度試験は、コードⅡにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表		平成25年8月30日 国土交通省 農林水産省 農機部 検査官 田中 隆雄
型式名: クボタ GL320		検査番号: 93009
種 類: 安全キャブ		
依頼者名: 株式会社 クボタ		
住 所: 大阪府大阪市浪速区津東1丁目 2番47号		



I 装着可能トラクター

1. 型式名	クボタ GL320	クボタ GL300	クボタ GL280
主要諸元(最大及び最小トラクター)			
■ 型式	クボタ GL320	クボタ GL300	クボタ GL280
■ 種類	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
■ 質量(キャブ付き)	kg : 1426	kg : 1395	kg : 1395
■ 軸 距	mm : 1750	mm : 1700	mm : 1700
■ 機関出力/回転数	kW(PS)/rpm : 23.5(32)/2800	kW(PS)/rpm : 20.6(28)/2600	kW(PS)/rpm : 20.6(28)/2600

II 構造の概要

1. 構造及び装着法
供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部、後車軸ケース部及びブレーキハウジング部にボルトで装着。ウインドスクリーン、ドア(両側)、制動、後窓を装備。

2. 主な装備

シートベルト(2点式)、暖房装置、電動ワイパー(前・後)

3. 主要寸法※

■ 座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ	: 89.0 cm
■ フロントプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ	: 132.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅	: 99.5 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅	: 110.5 cm
■ 戸口の幅	: 66.5 cm
■ 戸口の幅(上部)	: 80.0 cm
■ 戸口の幅(中部)	: 34.5 cm
■ 戸口の幅(下部)	: 120.0 cm
■ フロントプレートから	: 37.5 cm
■ 最低ステップの高さ	: 199.5 cm
■ キャブ装着時のトラクターの全高(キャブ上端まで)	: 120.0 cm
■ キャブの全幅(フェンダーを含む)	: 24.5 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離	: 24.5 cm

※ 1. クボタ GL320 (サイズ: 前輪 8-16 後輪 13.6-24) に装着時。
2. トラクターシートの銘柄型式: 鋼板プレス工業, N94850
3. ステアリングホイールのチャートは中央位置に調節。

4. 主要材料
■ フレーム: STX 400, STYX 400, SS 400, SPHC, SPCC
■ 装着ブラケット: SS 400, SPHC
■ 組立・装着ボルト: S40~45C

III 検査成績

1. 強度試験
1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。
■ 基準質量: 1430 kg
■ 所要吸取エネルギー: 後部負荷 2.30 kJ (235 kgf·m)
側部負荷 3.10 kJ (316 kgf·m)
■ 圧縮力: 21.04 kN (2145 kgf)
2) 試験後のキャブの永久変位
■ 後部(前方へ): 右側 1.5 cm 左側 7.5 cm
■ 前部(後方へ): 右側 1.5 cm 左側 -8.0 cm
■ 側部(左側方へ): 前側 5.0 cm 後側 19.0 cm
■ 上部(下方へ): 前部 0.5 cm 後部 4.0 cm 左側 1.5 cm
右側 6.0 cm
3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差: 10.0 cm

2. 騒音

■ 83 dBA (クボタ GL320) 83 dBA (クボタ GL280)

※ 7.5m/mに近しい速度段で、けん引機をかけた時のキャブ内騒音。運転者の耳もと

IV 付記

強度試験は、コードBにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ	
合格番号：93043	
種類：安全キャブ	
依頼者名：株式会社 クボタ	
住所：大阪府大阪市浪速区数津東1丁目 2番47号	

I 装着可能トラクター

クボタ GL338

主要諸元	クボタ GL338	クボタ GL268
■型式	クボタ GL338	クボタ GL268
■種類	4輪駆動	4輪駆動
■質量 (キャブ付き)	kg : 1460	1384
■軸距	mm : 1750	1645
■機関出力 / 回転数	kW(PS)/rpm : 24.3(33)/2700	19.1(26)/2600

II 構造の概要

1. 構造及び装着法
供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部、後車軸ケース部及びブレーキハウジング部にボルトで装着。ウインドスクリーン、ドア（両側）、側窓、後窓を装着。

2. 主な装着

シートベルト（2点式）、駆動装置、電動ワイパー（前・後）

3. 主要寸法

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ	: 101.0 cm
■フットプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ	: 143.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅	: 102.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅	: 110.5 cm
■戸口の幅	: 63.5 cm
■戸口の幅	: 82.0 cm
■戸口の幅	: 34.5 cm
■フットプレートから	: 136.5 cm
■最低ステップの高さ	: 37.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	: 224.0 cm
■キャブの全幅	: 120.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離	: 27.0 cm

- * 1. クボタ GL338 (タイヤサイズ : 前輪 8-16 後輪 13.6-24) に装着時。
 2. トラクターシートの取付型式 : 鋼板プレス工業 N94850
 3. ステアリングホイールの中心高さは中央位置に調整。

4. 主要材料
 ■主フレーム : STK 400, STR 400, SS 400, SPHC, SPCC
 ■装着ブラケット : SS 400, SPHC
 ■組立・装着ボルト : S40~45C

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。

■基準質量	1470 kg
■所要吸収エネルギー	後部負荷 2.37 kJ (241 kgf・m) 側部負荷 3.16 kJ (322 kgf・m)
■圧壊力	21.62 kN (2205 kgf)

2) 試験後のキャブの永久変位

■後部 (前方へ) : 右側	2.0 cm	左側	7.5 cm
■前部 (後方へ) : 右側	1.0 cm	左側	~8.5 cm
■側部 (左側方へ) : 前側	5.5 cm	後側	18.5 cm
■上部 (下方へ) : 前部 右側	0.5 cm	左側	1.0 cm
■後部 右側	4.0 cm	左側	5.5 cm
3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差	: 10.5 cm		

2. 騒音

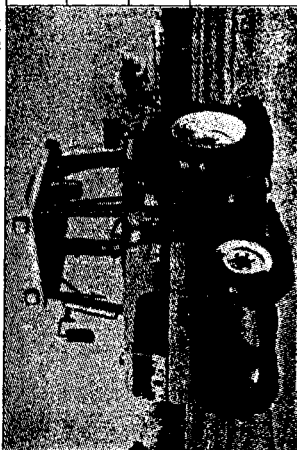
■82 dBA (クボタ GL338)	82 dBA (クボタ GL268)
---------------------	--------------------

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音、運転者の耳もと

IV 付記

強度試験は、ロードロにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表



型式名: クボタ GSO418
合格番号: 94067
種類: 安全キャブ
依頼者名: 株式会社 クボタ
住所: 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目 2番47号

I 装着可能トラクター

1. 型式名 クボタ GL418 クボタ GL368

主要諸元	クボタ GL418	クボタ GL368
■型式	クボタ GL418	クボタ GL368
■種類	4 輪駆動	4 輪駆動
■質量 (キャブ付き)	kg : 1634	1635
■軸距	mm : 1830	1830
■機関出力/回転数	kW(PS)/rpm : 30.9(42)/2600	25.5(35)/2600

II 構造の概要

1. 構造及び基準法

供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介して、クラッチハウジング部及び後車輪ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン、ドア(両側)、側窓、後窓を装備。

2. 主な装備

後窓装置、電動ワイパー(前・後)、シートベルト(2点式)

3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ	: 101.0 cm
■フートプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ	: 146.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅	: 102.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅	: 111.5 cm
■戸口の幅	: 66.0 cm
■戸口の幅	: 81.0 cm
■戸口の幅	: 36.0 cm
■最低ステップの高さ	: 136.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	: 38.5 cm
■キャブの全高	: 227.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離	: 120.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離	: 26.5 cm

※ 1. クボタ GL418 (タイヤサイズ: 前輪 8-16 後輪 13.5-26) に装着時。

2. トラクターシートの型式: 履帯プレス工業, N94850

3. ステアリングホイールの中心は中央位置に設けられる。

4. 主要材料

- 主フレーム: STK 400, STKR 400, SPHC, SS400, SPCC
- 装着ブラケット: SPHC, SS 400
- 組立・装着ボルト: S40-45C

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。

■基準質量: 1640 kg

■所要吸収エネルギー: 後部負荷 2.64 kJ (269 kgf・m)

側部負荷 3.39 kJ (346 kgf・m)

■圧壊力: 24.12 kN (2460 kgf)

2) 試験後のキャブの永久変位

■後部(前方へ): 右側 4.0 cm 左側 12.0 cm

■前部(後方へ): 右側 0.5 cm 左側 -11.5 cm

■側部(左側方へ): 前側 7.5 cm 後側 21.0 cm

■上部(下方へ): 前部 右側 1.0 cm 左側 1.0 cm

後部 右側 5.0 cm 左側 7.0 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差: 10.0 cm

2. 騒音 ※

■85 dBA (クボタ GL418)

85 dBA (クボタ GL368)

※ 7.5m/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音。運転者の耳もと

IV 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本 社	社：大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556	電(06)	648-2111
京 本	社：東京都中央区日本橋室町3丁目1番3号	〒103	電(03)	3245-3111
北 海 道 支	社：札幌市中央区北3条西3丁目1番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東 北 支	社：仙台市青葉区本町2丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中 部 支	社：名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九 州 支	社：福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札 幌 支	店：札幌市西区西町北16丁目1番1号	〒063	電(011)	662-2121
仙 台 支	店：名取市田高字原182番地の1	〒981-12	電(022)	384-5151
東 京 支	店：浦和市西堀5丁目2番36号	〒338	電(048)	862-1121
大 阪 支	店：大阪府堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡 山 支	店：岡山市宍275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福 岡 支	店：福岡市東区和白丘2丁目2番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺 製 造	所：堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇 都 宮 工	場：宇都宮市平出工業団地22番地2	〒321	電(0286)	61-1111
筑 波 工	場：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚 方 製 造	所：枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1121
堺 部 品 セ ン タ ー	：堺市築港新町3丁目8番	〒592	電(0722)	45-8601
宇 都 宮 部 品 セ ン タ ー	：宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
筑 波 部 品 セ ン タ ー	：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚 方 部 品 セ ン タ ー	：枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1797
北 海 道 部 品 セ ン タ ー	：北海道札幌郡広島町大曲工業団地3丁目1番地	〒061-12	電(011)	376-2335
株式会社クボタアグリ東北				
秋 田 事 業 所	：秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙 台 事 業 所	：宮城県名取市田高字原182-1	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東 京 事 業 所	：浦和市西堀5-2-36	〒338	電(048)	862-1121
新 潟 事 業 所	：新潟市上所上1-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金 沢 事 業 所	：石川県松任市下柏野町956-1	〒924	電(0762)	75-1121
名 古 屋 事 業 所	：愛知県一宮市観音町1-1	〒491	電(0586)	24-5111
大 阪 事 業 所	：大阪府堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米 子 事 業 所	：米子市米原7丁目1番1号	〒683	電(0859)	33-5011
岡 山 事 業 所	：岡山市宍275	〒703	電(0862)	79-4511
高 松 事 業 所	：香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福 岡 事 業 所	：福岡市東区和白丘2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊 本 事 業 所	：熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1	〒861-41	電(096)	357-6181